

お盆を迎えて

尊き縁ありて共に暮らした今は亡き両親、亡き夫や妻、

亡き愛する我が子、亡き祖父母をはじめご先祖様。

年に一度、亡き方々をどのようにお迎えしご供養しようと

心を寄せ合うところからお盆の行事がはじまります。



お盆の由来

正式には盂蘭盆と言います。この行事は古くお釈迦様の在世にさかのぼります。

ある時、お釈迦様の弟子の目連さまが、亡き母が、今、どのような世界にいるのか、神通力で見ました。すると餓鬼（がき）という世界で苦しんでいたのです。

餓鬼の世界は倒懸・とうけん（さかさまにつるす）といい、その苦しみは、耐え難いほどのものです。食物や飲み水さえありません。母は痩せ衰えていました。

目連さまは、鉢に盛ったご飯を母にたむけます。ところがご飯は炎となって燃え、食えることができません。困り果てた目連さまは、お釈迦様に話されました。

お釈迦様は「母の罪は深く、おまえの力ではどうすることもできない。親を思う孝心が強くても、天地の神々をもつてしてもどうすることもできないであろう」と、



「ではどうしたら母を救うことができるのでしょうか」と尋ねられました。お釈迦様は「母を餓鬼世界から救うには、勝れた僧たちの力にあずかるしかないのだ。僧たちの修行が終わる七月十五日、この日に様々な食物、果物、日用品等をすべての僧に供養しなさい。大勢の僧の力の結集によって、おまえの母はきっと救われるであろう。」と言われました。

目連さまはお釈迦様にいわれたとおり大供養会を営み、母や、そこにいた住人も救われました。「私の父母が救われたのは、多くの僧たち力によるものです。これからも、この方法で、未来の人々も救うことができるでしょうか」と尋ねられます。



お釈迦様は「親を慈しみ誠を尽くそうとするものは、生みの父母、過去七代の父母のため、七月十五日に飲食物を供え、仏ならば僧に施しをもつて盂蘭盆会を営みなさい。そうすれば父母のみならず有縁のものは餓鬼の苦しみから逃れ、天上に生まれ変わるであらう。そして、今も健在である父母の寿命も延び病むことなく、苦悩も除かれる。養い育ててくれた父母の恩に報いなさい。仏弟子たらんとする者はこの教えを守らなければならぬ。」と説かれました。

お盆の行事は、時代や風土・風習により方法も異なっておりますが、その孝心の想いは同じです。日蓮大聖人も、「盂蘭盆御書」の中に、法華経とお題目の功德と合わせて、お塔婆供養やお盆の尊さを説かれておられます。

お盆を迎えるにあたり、又、子孫に伝えていく為にも、「私たちのお盆」を営みたく存じます。ご不明な点をご遠慮なくお尋ねください。

お盆の行事は、お寺とご家庭で行います。

お寺で行うお盆の法要

つらほんえせがきほうよう ほんどう ほうよう
孟蘭盆会施餓鬼法要・本堂にて皆さんと法要を営みます。

- ▼ 平成25年7月7日(日) 午後一時より、本堂にて営みます。
 - ▼ 施餓鬼法要は、亡き方々へは「塔婆供養・とうぼくよう」を捧げ、生きている方々には「施食供養・せじきくよう」を行い、厳粛なる法要を、皆さんとご一緒に営みます。
- 法要に際し「**塔婆供養**」「**施食供養**」のお申し込みをお願いします。

- ▼ **初盆供養** (はつぼんくよう) (平成24年7月お盆法要後より、平成25年7月お盆法要前迄に亡くなられた方)に
対し、孟蘭盆会法要の時、特別に卒塔婆を建立し初盆供養を営みます。ご親族やご友人にも、**初盆供養のお塔婆**を受け付めますのでお申し込み下さい。 **個別にご案内をお送りします。**

ほうえんじぼえんこう はかまい
法筵寺墓苑回向・お墓参り (永代納骨供養塔も含みます)

- ▼ 法筵寺墓苑にて、墓地のお盆回向を営みます。(平成25年7月13日へ土曜日)午前9時より)
精霊送り法要はございません。

- ▼ お盆飾りの形式を変えていくことにより(後述)、「精霊送り」は行いませんのでご了承下さい。
尚、ご家庭での、「迎え火」「送り火」等、従来のお盆行事が可能な方はお続け下さい。

ご家庭で行うお盆の行事

ほんほうおんついせん ひ ほんたなきよう
お盆報恩追善の日(お盆棚経)・自宅で営む日について

- ▼ 七月、又は八月の十三、十四、十五日の三日間をお盆の期間としていますが、この三日間にとらわれず、七、八月の二カ月間の内、ご家族が揃って集える日に「**お盆報恩追善の日(お盆棚経)**」として営んで頂けますようお勧めしています。特に、初盆を迎えられます家など、ご親族が一同に集まることにより故人様へのご供養になります。
- ▼ 「お盆報恩追善の日」を、各ご家庭で決めて頂き、ご回向申込用紙にてお申込み下さい。希望の日時を指定されない場合は、昨年に準じ、もしくは当山の都合にて決めさせて頂きます。いずれも、**七月初旬に、伺う日時をご連絡**致します。

かざ まつ しかた
お飾りについて・お祀りの仕方

- ▼ お盆報恩追善の日は、ご仏壇の前に机等を準備し、お供え物をして下さい。
- ▼ ご家庭にある最高の食器を用いるなど創意工夫しお供えをして頂き、お盆のお飾りとします。
- ▼ 指定された当日、法筵寺住職、もしくは弟子が伺い皆さんと共に、お盆報恩追善の読経ご回向を行います。
- ▼ ご回向後はご家族でお供えを召し上がって下さい。



法筵寺では、お盆の行事を十五年前より現在の方法を行っております。勿論、環境条件等によって異なりますが、良い習慣もたくさんありますのでそれらの行事はお続け下さい。